

国立の未来を考える

国立第一中学校 3年 上田 恭豪

桜満開の四月、愛知県の僻地から越してきた。以前、住んでいたところはこんなに桜はなかった。あるものは海と田ばかりだった。海ばかりみて育ったので、美しい自然には慣れていたつもりだったが、数え切れない桜に囲まれた道路の真ん中に立ったときは迫力があった。その桜は春しか楽しめない。そこで、桜の春夏秋冬にあう花を桜の美しさに副えるかたちで咲かせてみたらどうだろうか。例えば春、桜の下に菜の花が咲いている。ピンクと黄色が春を思わせそうだ。夏の桜は緑の葉をつける。緑ばかりなので色を入れるために石南花や芍薬を植える。白や赤、それと緑でカラフルになる。秋はイチョウがきれいと言った。秋の花といえばすすきか彼岸花だと思っている。そばにあったら鮮やかな色あいでいいと思う。冬はあまり楽しみがなさそうだが、落ち葉はすごい量だろう。落ち葉とさざんかの組み合わせも見てみたい。

自然とは別だが、国立市は駅の三角屋根が市民に人気があったと聞き、見たかった。三角屋根再建の動きもあるが、早く見たい。僕なら早々に再建してしまい、建物を土産物屋にする。そこで出た利益の何%かを借金返済と再なる発展に当てる。くににゃんストラップのガチャガチャのお金を合わせれば、もっと早く夢が叶うはず。もう一つ、人を集める為にまず、大学通りの端二本車線を利用して、動く歩道を設置したい。屋根にはソーラーパネルをつけて電力をまかなう。こうすることで国立市の南北をつなぎ、誰でも自由に行き来が楽にできる環境が整う。環境が整ったら、見どころが欲しくなる。そこで、色々な有名な作家や学生に、くににゃんをモチーフにしたオブジェを製作してもらい、至るところに設置する。そばにスタンプ台を設けて、スタンプの集まり具合で景品がもらえるようにしても楽しいだろうし、オブジェがあるだけでも見物したい。僕を含め、自転車好きな人もいると思うので、駅のそばや要所には、レンタルサイクルを設置して、自由にあちらこちらへいけたら魅力的な街になると思う。

こんな国立の未来が見てみたい。